

外濠浄化に向けた基本計画【概要版】

第1章 外濠浄化に向けた取組

1-1 外濠の現状(図1参照)

- 現状の外濠の水辺空間は、アオコの大量発生により、まちに安らぎや潤いを与える機能を十分に発揮できておらず、都市の魅力が低下している状況

1-2 外濠浄化の目的(図1参照)

- 歴史的財産である外濠の水質改善を進め、都心で働く人々に癒しの場を提供するとともに、品格ある景観を形成し、魅力あるまちづくりへつなげていき、外濠浄化の推進を契機として、「水の都」東京を甦らせることを目的とする。

1-3 外濠浄化の取組経緯

- 「都市づくりのグランドデザイン(平成29年9月)」において、「お濠や池などの良好な水辺への再生に向けた取組を、区市町村等と連携し計画的に進めること」を公表し、平成30年9月に、庁内関係局による検討会を設置して、外濠の水質改善に向けた検討を開始
- 「未来の東京」戦略(令和3年3月)や「未来の東京」戦略version up 2022(令和4年2月)において、歴史的財産である外濠の水質改善を進め、都心で働く人々に癒しの場を提供するとともに、品格ある景観の形成により地域全体の活性化を図る『外濠浄化プロジェクト』を提示し、外濠浄化の推進を契機として、「水の都」東京を甦らせるとした。

1-4 基本計画の位置付け

- 本基本計画は、外濠浄化の取組経緯を踏まえ、『外濠浄化』を具体的に取り組んでいくための基本的な計画とすることを目的として策定し、計画内容としては、事業スキームや施設整備計画(導水に必要な水源・水量、導水ルート、整備スケジュール等)を定める。
- 今後、本基本計画に基づいて、庁内関係局が連携しながら、施設整備を実施し、施設整備の進捗などに伴い、適宜、見直しを図る。
※長期的には、玉川上水の水を元の多摩川から引き、本来の玉川上水の姿に甦らせる可能性も展望



《右画像の出典：「未来の東京」戦略 version up2022(R4.2)》

図1 外濠の現状と浄化のイメージ

第2章 事業スキーム

2-1 外濠浄化対策

- 恒久的な水質改善対策として、浄化用水の導入により濠水の滞留を防止して、アオコの大量発生を抑制することとし、導水に必要な施設を整備

2-2 施設整備方針

- 外濠導水の早期実現や施設整備費の縮減に向け、既存施設や既存事業を最大限活用したうえで、既存施設の改良や導水路の新設などの施設整備に取り組む。

2-3 庁内役割分担(図2参照)

- 庁内関係局(都市整備局、水道局、下水道局、環境局、建設局)にて役割を分担し、『外濠浄化』を推進

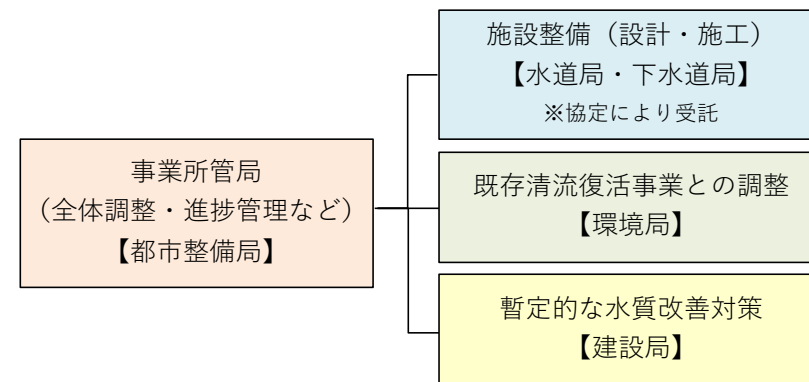


図2 庁内役割分担のイメージ

第3章 施設整備計画

3-1 計画概要

(1) 整備対象

○ 外濠3濠（市ヶ谷濠、新見附濠、牛込濠）《東京都千代田区、新宿区》

(2) 計画導水量

○ 外濠へ0.5m³/sの水を導水すれば、おおむね5日で濠水が入れ替わり、水の滞留時間が5日を超えないことから、アオコの発生が抑制されるため、0.5m³/s程度

(3) 導水する水源・水量

○ ①②の水源を活用し、外濠浄化に必要な水量（0.50m³/s程度）を確保

① 下水再生水 ② 荒川河川水

(4) 導水ルート(図3参照)

《下水再生水の導水》

多摩川上流水再生センター ⇒ 玉川上水路 ⇒ 新設導水路 ⇒ 外濠

《荒川河川水の導水》

秋ヶ瀬取水堰 ⇒ 既存施設・新設導水路 ⇒ 玉川上水路 ⇒ 新設導水路 ⇒ 外濠



図3 外濠への導水ルートのイメージ



図4 施設整備ステップ図

3-2 施設整備ステップ(図4参照)

○ 「STEP 1 下水再生水の導水」「STEP 2 荒川河川水の導水」に分けて、施設整備を実施

3-3 施設整備スケジュール(図5参照)

○ 2022年度から基本設計を進め、2030年代半ばに施設整備が完了し、外濠の水辺再生により、魅力あるまちづくりを展開

外濠浄化に向けた取組	2020年代	2030年代	2040年代
STEP1 下水再生水の導水	基本設計・詳細設計・工事施工など	基本設計・詳細設計・工事施工など	外濠の水辺再生により、魅力のあるまちづくりを展開
STEP2 荒川河川水の導水			

※ 各年度の開始、地域別と連携し、外濠の暫定的な水質改善対策（アオコ発生抑制対策）にも取り組む

図5 施設整備スケジュール